

2010/12/10

## 柏の景気情報（平成22年11月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課  
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18  
TEL : 04-7162-3305  
FAX : 04-7162-3323  
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>  
E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

## 柏の景気情報（平成22年11月分）

○ 調査期間 : 平成22年11月16日 ~ 11月19日

○ 調査対象 : 柏市内107事業所及び組合にヒアリング

### ＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	107	73	68.2%
建設	19	14	73.7%
製造	23	16	69.6%
卸・小売	43	29	67.4%
サービス	22	14	63.6%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

### 質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

### 質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

#### ※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

#### ※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成22年11月の調査結果のポイント】

《業況DI三カ月ぶりに全国を上回る》

○11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲32.8(前月水準▲40.7)となり、マイナス幅が△7.9ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△12.5(同±0.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲28.5(同▲53.3)、卸小売業▲51.7(同▲56.6)であり、特に、サービス業はマイナス幅が△24.8ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲

【建設業】からは、「業況は厳しいままだが、波を乗り越えるかじ取りをし改善に結び付けたい」(板金・金物工事業)、「仕入単価も上昇しているが、完成売上原価の上昇が高い。諸経費材料の使用量が多く、利益を圧迫している」(電気工事業)などの声が寄せられた。

【製造業】からは、「円高については販売価格(売上)に影響する」(ガラス・同製品製造業)、「好転はしているが、ユーザーの在庫圧縮しすぎの反動がひとつの要因なので楽観視はできない」(その他の鉄鋼業)、「受注単価の減少が目立つようになってきた」(一般産業用機械設備製造業)という意見が寄せられた。

【卸小売業】からは、「消費者の意識が目玉商品特売商品にしか向いていないように思われます。どこまで景気が低迷してゆくのかわかりません」(食料・飲料卸売業)、「野菜の主要品目では入荷減単価高が続いています。果実でも入荷減単価高となって、総体でも入荷減で売上高はわずかの増加で推移しています。しかし消費購買力は低迷状況にあるので、買出し人への情報を確認し、あわせて安全安心の取引を行っていきます」(食料・飲料卸売業)、「夏の猛暑による大赤字が繁忙期に向かい多少改善されるかと期待したが、仕入単価上昇となった」(燃料小売業)、「メディアの取材が3社あり、売上アップが期待できる」(食肉小売業)といった内容のコメントが上がってきた。

【サービス業】からは「宿泊はインターネットからの予約が拡大し、一室単価を下げる。今月はスポーツ団体等と、イベント団体の予約が多く単価は下がったが、稼働を上げることとなる」(ホテル)、「年末年始を控えているためか、客単価が少しずつ下がっている」(公衆浴場業)などのコメントが寄せられた。

◎入店客数の減少

各業種から、「全体的に来店客数減少傾向。新学期商品仕入れの為、資金繰りが厳しい」(その他の飲食料品小売業)、「11月は祝い月のため料理店は家庭内のお祝い事で一時的に不景気を忘れたかのような時期を迎えている。しかし、一般のお客様の出足は非常に鈍い様子。年内中に数件の個人店が閉店するとの話も聞いた」(食堂・レストラン)、「11月は創業のイベント実施したため集客はできた。12月の宴席予約は昨年以上に盛り上がっているが平日苦戦」(酒場・ビヤホール)など、入店客数に関するコメントが寄せられた。減少傾向の企業が多い様子。

◎冬物衣料商戦

各業種から、「天候の安定などにより冬物衣料品が好調に推移するなど堅調な動き」(百貨店)、「11月初旬に寒い日が続く衣料品が売り上げ増となったが、再度暖かさが戻り冬物の動き無し。コートなど売れ残り状態」(その他の飲食料品小売業)、「気温の低下とともに冬物衣料に動きが出たが、コートなどの高額商品は動きが鈍い。年末に向け販促イベントをうって売り上げ増を目指したい」(その他の各種商品小売業)、「重衣料・ブーツ等のフェアを行い、気温の低下も重なったことから、高単価商材の購買につながったため、月初から好調な出足となった」(各種商品小売業)など、さまざまな声が上がってきた。

◎売上高の減少

各業種から、「たばこ税の影響も対前年で85%以上に回復。売り上げは対前年で減少しているが客数は伸びている」(その他の各種商品小売業)、「当社顧客に仕事が無く、したがって当社の売上減少も極めて深刻。売掛金の回収に四苦八苦ししている」(塗料卸売業)などのコメントがあった。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
6月	▲42.6	▲46.1	±0.0	▲65.5	▲33.3
7月	▲30.0	▲42.8	△18.7	▲51.8	▲30.7
8月	▲38.0	▲50.0	△21.4	▲58.6	▲42.8
9月	▲44.7	▲33.3	▲6.6	▲72.0	▲50.0
10月	▲40.7	▲40.0	±0.0	▲56.6	▲53.3
11月	▲32.8	▲50.0	△12.5	▲51.7	▲28.5
見通し	▲31.5	▲35.7	▲37.5	▲31.0	▲21.4

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成22年11月の業況についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲32.8(前月水準▲40.7)となり、マイナス幅が△7.9ポイント縮小した。

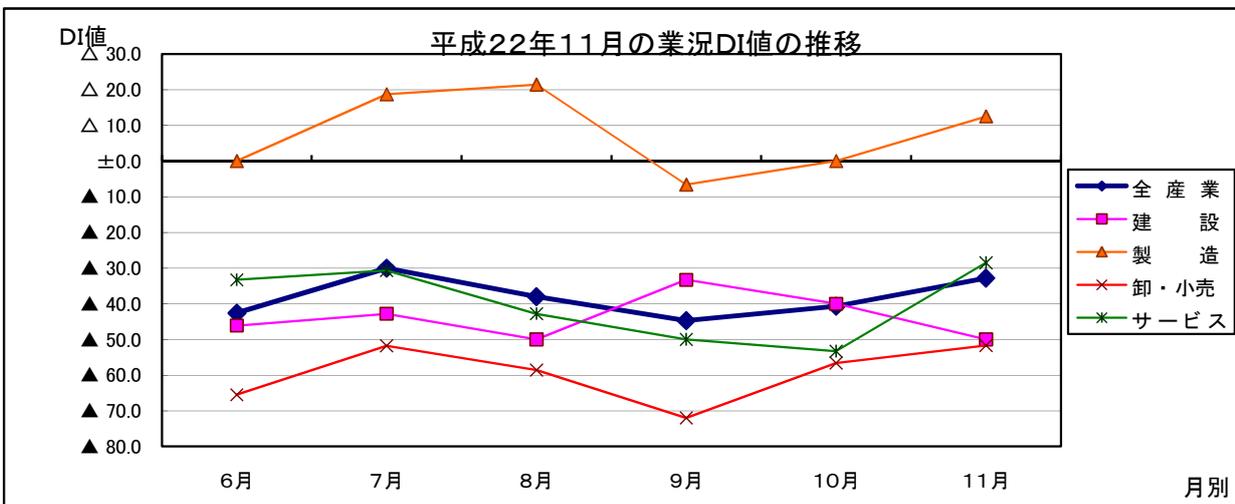
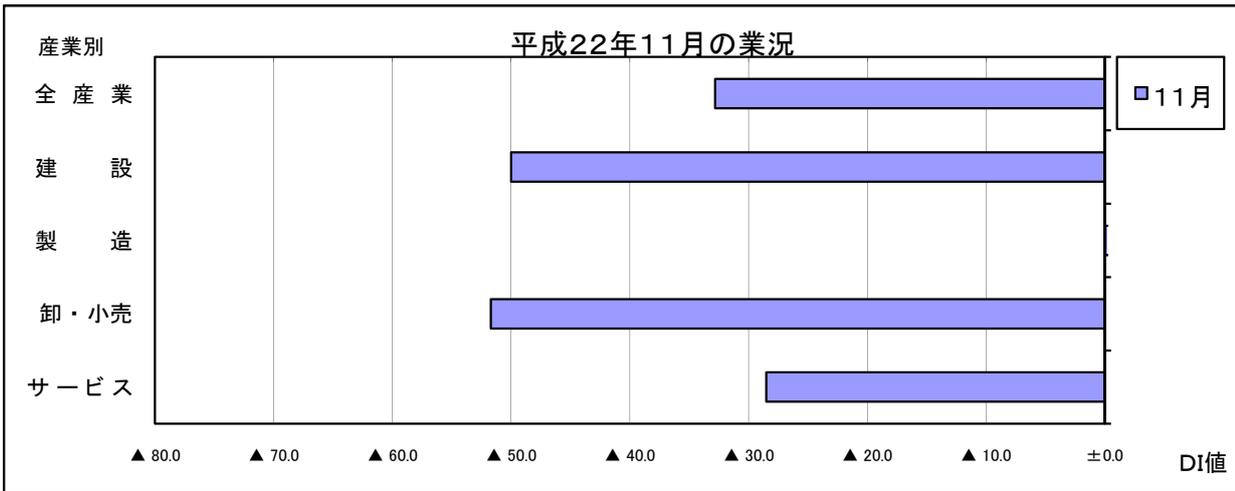
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△12.5(同±0.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲28.5(同▲53.3)、卸小売業▲51.7(同▲56.6)であり、特に、サービス業はマイナス幅が△24.8ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲50.0(同▲40.0)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲31.5(前月水準▲34.2)となり、マイナス幅が△2.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲21.4(同▲33.3)、卸小売業▲31.0(同▲36.6)である。変らない見通しの業種は、製造業▲37.5(同▲37.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲35.7(同▲26.6)である。

平成22年11月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成22年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲42.6	▲30.0	▲38.0	▲44.7	▲40.7	▲32.8	▲31.5(▲34.2)
建設	▲46.1	▲42.8	▲50.0	▲33.3	▲40.0	▲50.0	▲35.7(▲26.6)
製造	±0.0	△18.7	△21.4	▲6.6	±0.0	△12.5	▲37.5(▲37.5)
卸・小売	▲65.5	▲51.8	▲58.6	▲72.0	▲56.6	▲51.7	▲31.0(▲36.6)
サービス	▲33.3	▲30.7	▲42.8	▲50.0	▲53.3	▲28.5	▲21.4(▲33.3)



【平成22年11月の売上についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲21.9(前月水準▲21.0)となり、マイナス幅が▲0.9ポイント拡大した。

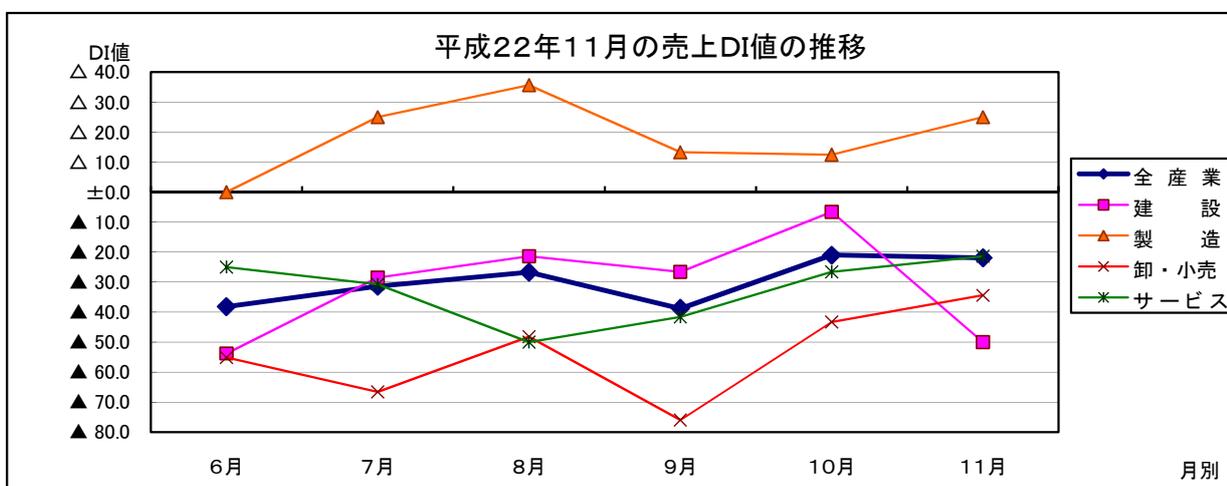
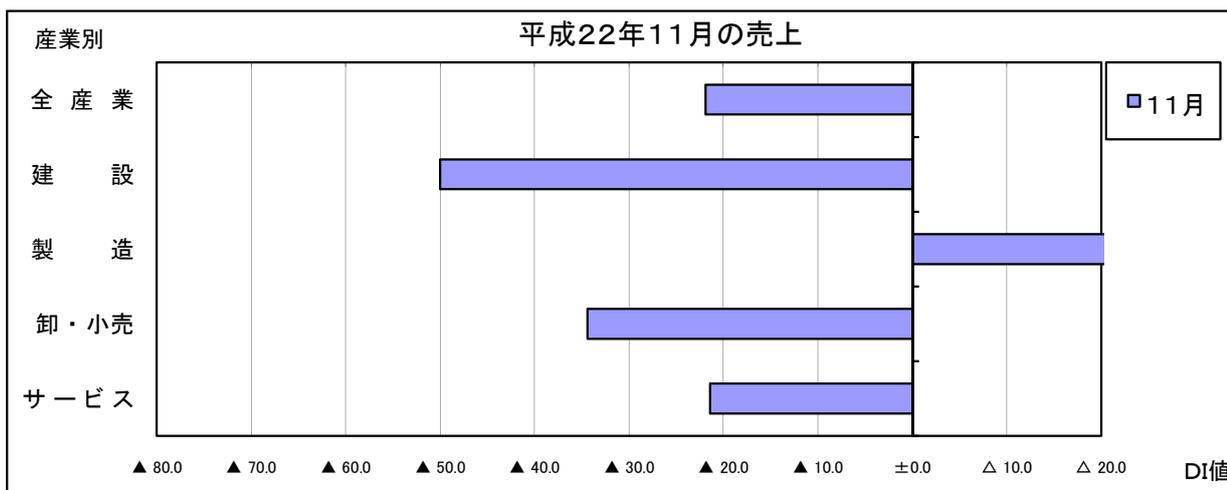
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△25.0(同△12.5)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲34.4(同▲43.3)、サービス業▲21.4(同▲26.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲50.0(同▲6.6)であり、マイナス幅が▲43.4ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲19.1(前月水準▲25.0)となり、マイナス幅が△5.9ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲25.0(同▲43.7)、卸小売業▲13.7(同▲26.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲28.5(同▲20.0)、サービス業▲14.2(同▲6.6)である。

平成22年11月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成22年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲ 38.2	▲ 31.4	▲ 26.7	▲ 38.8	▲ 21.0	▲ 21.9	▲ 19.1 ( ▲ 25.0 )
建設	▲ 53.8	▲ 28.5	▲ 21.4	▲ 26.6	▲ 6.6	▲ 50.0	▲ 28.5 ( ▲ 20.0 )
製造	±0.0	△ 25.0	△ 35.7	△ 13.3	△ 12.5	△ 25.0	▲ 25.0 ( ▲ 43.7 )
卸・小売	▲ 55.1	▲ 66.6	▲ 48.2	▲ 76.0	▲ 43.3	▲ 34.4	▲ 13.7 ( ▲ 26.6 )
サービス	▲ 25.0	▲ 30.7	▲ 50.0	▲ 41.6	▲ 26.6	▲ 21.4	▲ 14.2 ( ▲ 6.6 )



【平成22年11月の採算についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲36.9(前月水準▲32.8)となり、マイナス幅が▲4.1ポイント拡大した。

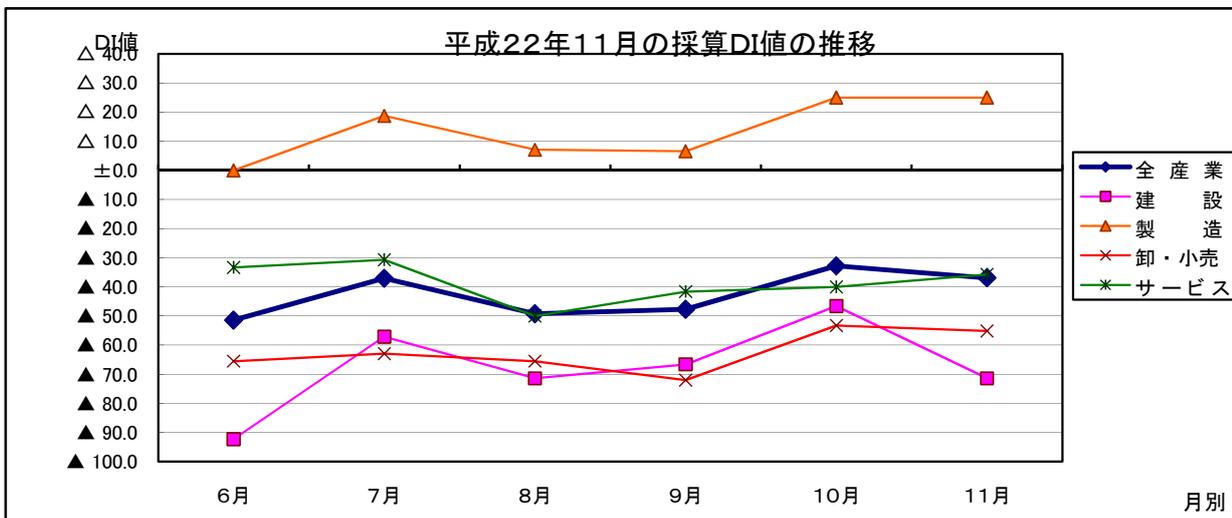
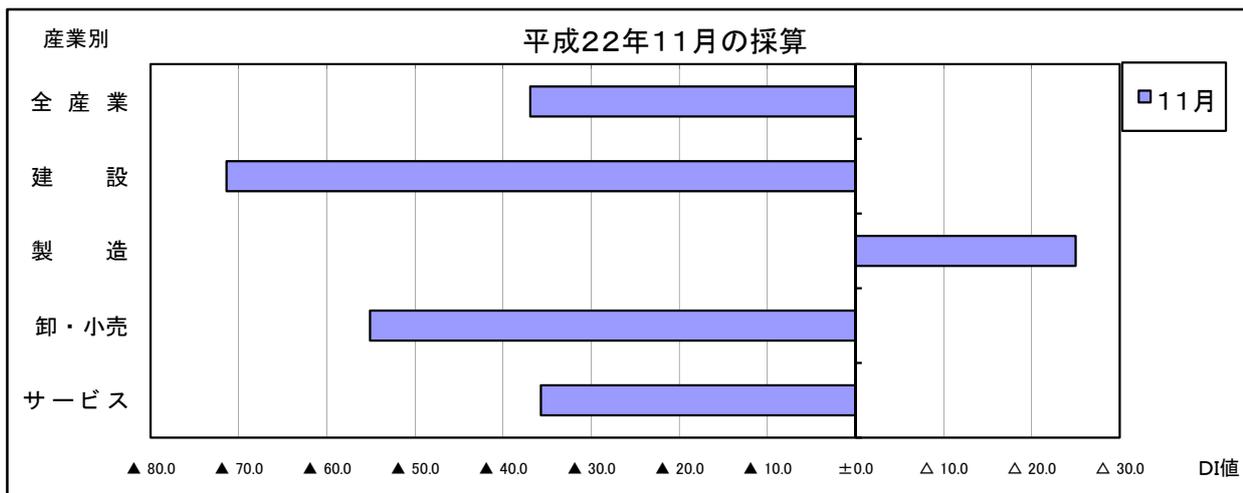
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲35.7(同▲40.0)である。変らない業種は、製造業△25.0(同△25.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲71.4(同▲46.6)、卸小売業▲55.1(同▲53.3)である。特に、建設業はマイナス幅が▲24.8ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲30.1(前月水準▲36.8)となり、マイナス幅が△6.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲31.2(同▲43.7)、卸小売業▲31.0(同▲43.3)、サービス業▲21.4(同▲26.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲35.7(同▲26.6)である。

平成22年11月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成22年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲51.4	▲37.1	▲49.2	▲47.7	▲32.8	▲36.9	▲30.1(▲36.8)
建設	▲92.3	▲57.1	▲71.4	▲66.6	▲46.6	▲71.4	▲35.7(▲26.6)
製造	±0.0	△18.7	△7.1	△6.6	△25.0	△25.0	▲31.2(▲43.7)
卸・小売	▲65.5	▲62.9	▲65.5	▲72.0	▲53.3	▲55.1	▲31.0(▲43.3)
サービス	▲33.3	▲30.7	▲50.0	▲41.6	▲40.0	▲35.7	▲21.4(▲26.6)



【平成22年11月の仕入単価についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲21.9(前月水準▲23.6)となり、マイナス幅が△1.7ポイント縮小した。

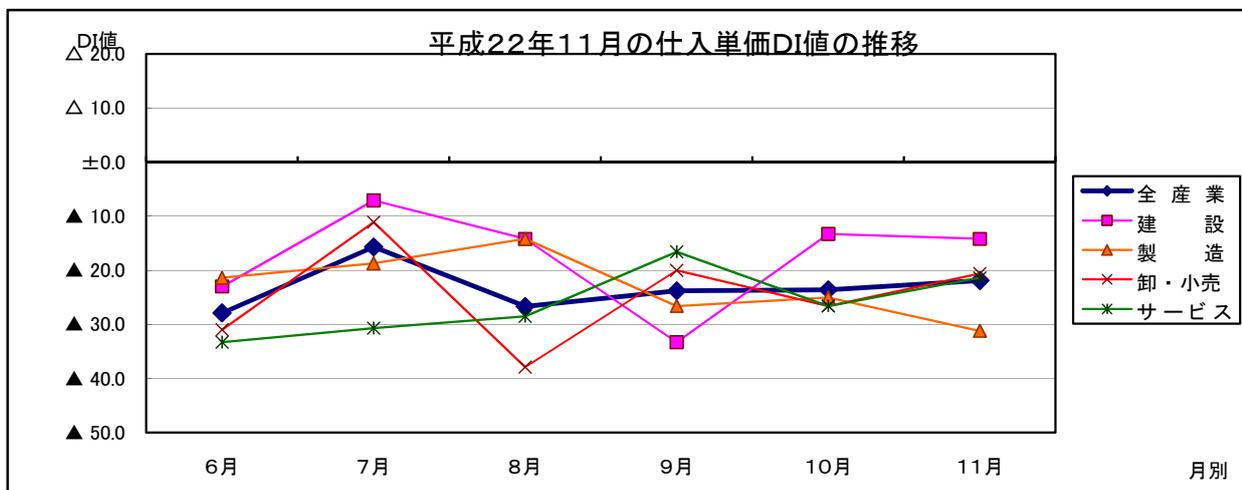
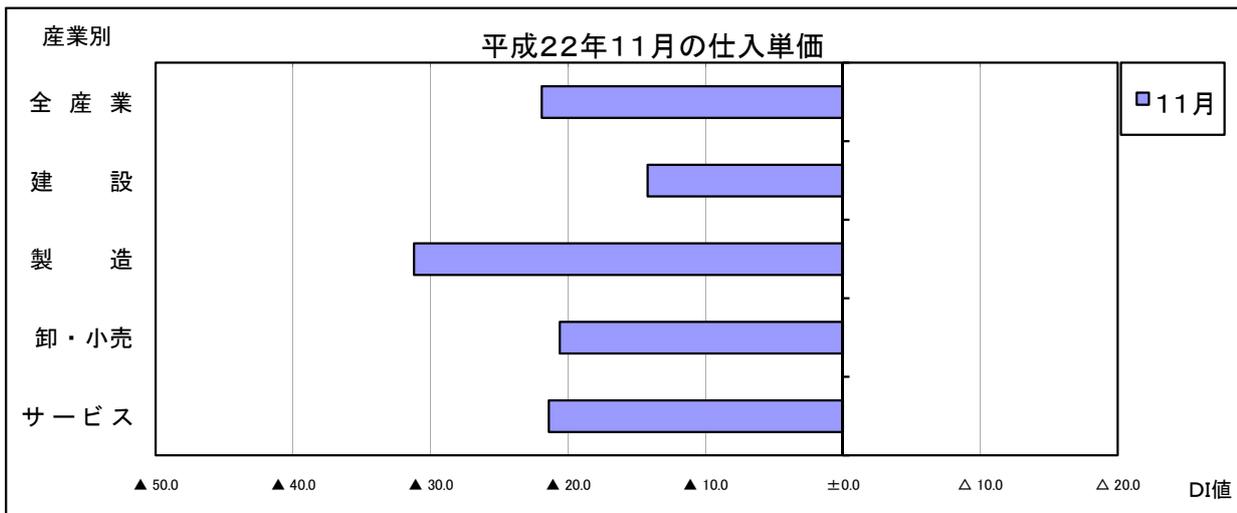
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲20.6(同▲26.6)、サービス業▲21.4(同▲26.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲31.2(同▲25.0)、建設業▲14.2(同▲13.3)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲24.6(前月水準▲21.0)となり、マイナス幅が△1.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲14.2(同▲20.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲37.5(同▲25.0)、卸小売業▲24.1(同▲20.0)、建設業▲21.4(同▲20.0)である。

平成22年11月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成22年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲27.9	▲15.7	▲26.7	▲23.8	▲23.6	▲21.9	▲24.6(▲21.0)
建設	▲23.0	▲7.1	▲14.2	▲33.3	▲13.3	▲14.2	▲21.4(▲20.0)
製造	▲21.4	▲18.7	▲14.2	▲26.6	▲25.0	▲31.2	▲37.5(▲25.0)
卸・小売	▲31.0	▲11.1	▲37.9	▲20.0	▲26.6	▲20.6	▲24.1(▲20.0)
サービス	▲33.3	▲30.7	▲28.5	▲16.6	▲26.6	▲21.4	▲14.2(▲20.0)



【平成22年11月の従業員についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△1.3(前月水準▲6.5)となり、プラス幅方向へ△7.8ポイント拡大した。

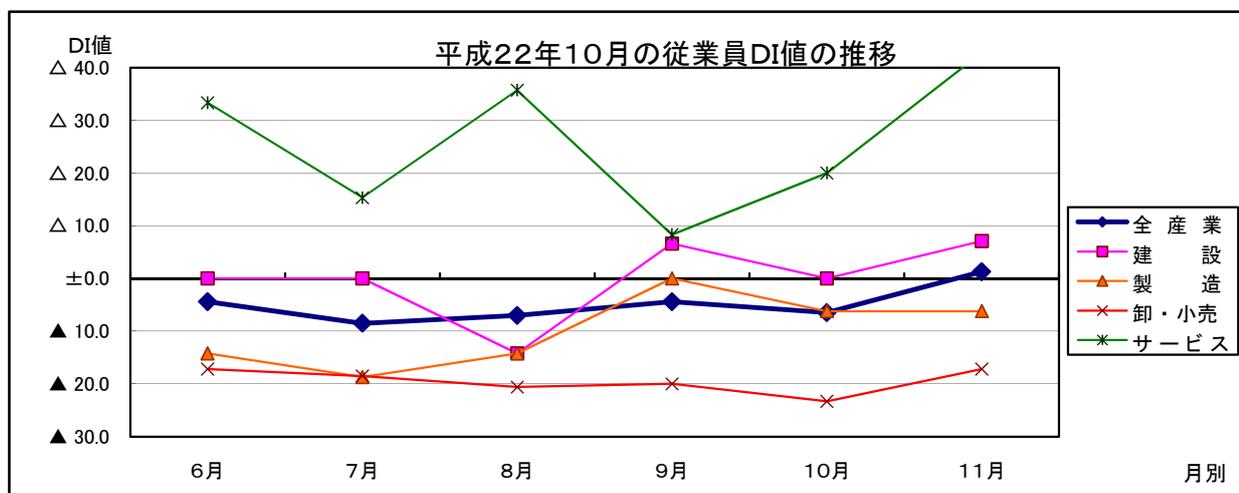
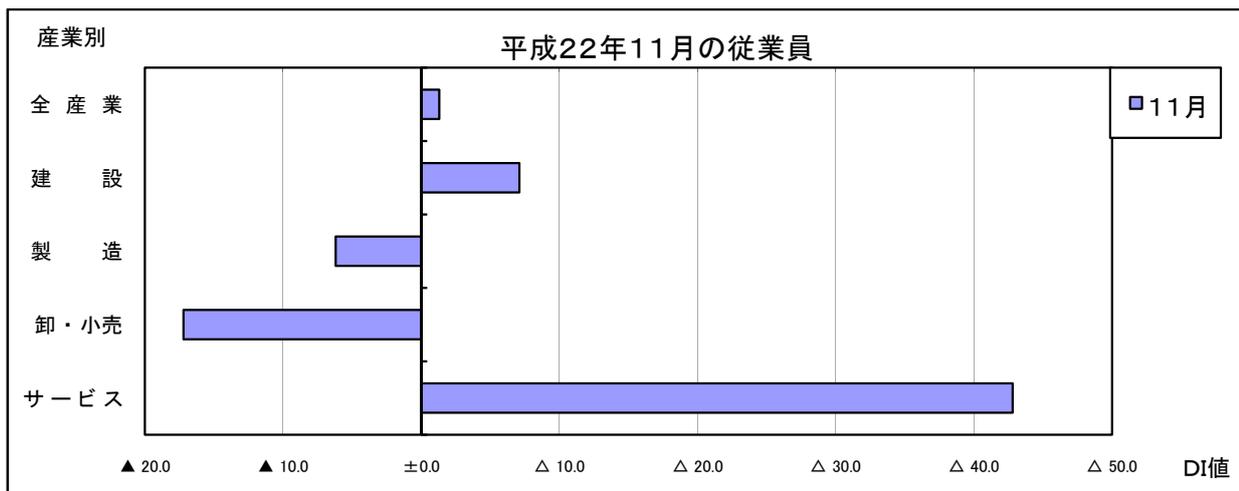
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業△42.8(同△20.0)、建設業△7.1(同±0.0)であり、特に、サービス業はプラス幅が△22.8ポイントと大幅に拡大した。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲17.2(同▲23.3)である。変らない業種は、製造業▲6.2(同▲6.2)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲1.3(前月水準▲9.2)となり、マイナス幅が△7.9ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△28.5(同△20.0)、建設業△7.1(同±0.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲18.7(同▲25.0)、卸小売業▲10.3(同▲20.0)である。

平成22年11月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成22年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲4.4	▲8.5	▲7.0	▲4.4	▲6.5	△1.3	▲1.3(▲9.2)
建設	±0.0	±0.0	▲14.2	△6.6	±0.0	△7.1	△7.1(±0.0)
製造	▲14.2	▲18.7	▲14.2	±0.0	▲6.2	▲6.2	▲18.7(▲25.0)
卸・小売	▲17.2	▲18.5	▲20.6	▲20.0	▲23.3	▲17.2	▲10.3(▲20.0)
サービス	△33.3	△15.3	△35.7	△8.3	△20.0	△42.8	△28.5(△20.0)



【平成22年11月の資金繰りについての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲21.9(前月水準▲22.3)となり、マイナス幅が△0.4ポイント縮小した。

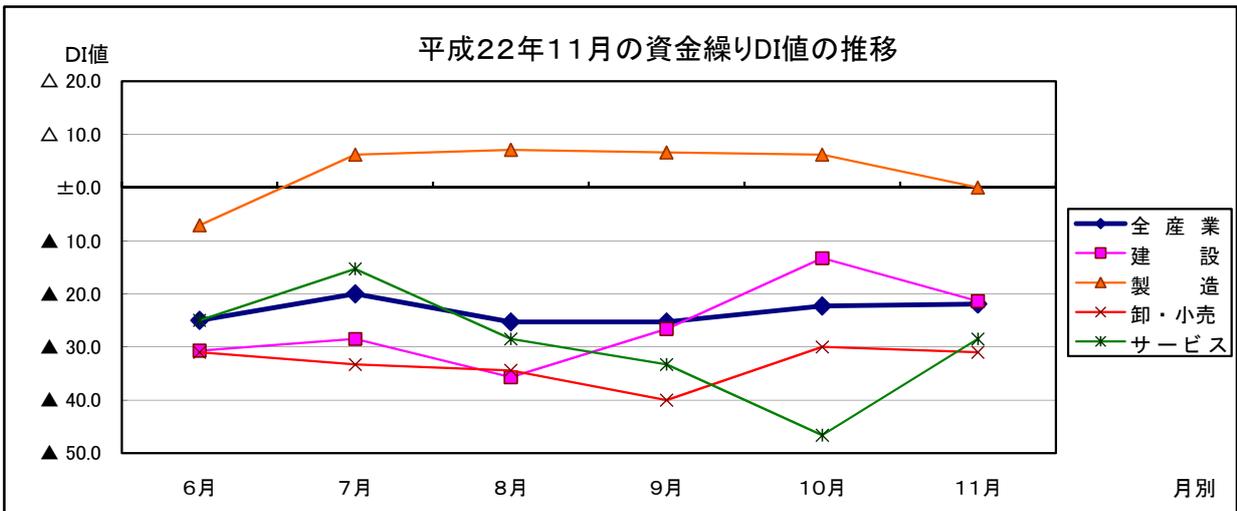
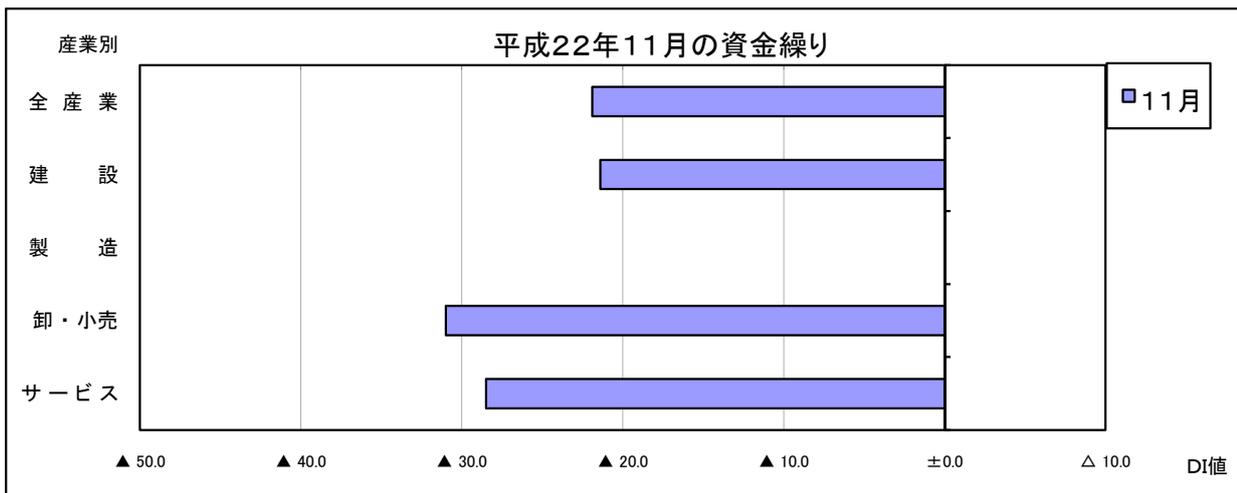
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲28.5(同▲46.6)である。プラス幅が縮小した業種は、製造業±0.0(同△6.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲21.4(同▲13.3)、卸小売業▲31.0(同▲30.0)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲17.8(前月水準▲26.3)となり、マイナス幅が△8.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、すべての業種においてマイナス幅が縮小する見通しであり、幅の大きい順に、サービス業▲14.2(同▲33.3)、建設業±0.0(同▲13.3)、製造業▲25.0(同▲31.2)、卸小売業▲24.1(同▲26.6)である。

平成22年11月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成22年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲25.0	▲20.0	▲25.3	▲25.3	▲22.3	▲21.9	▲17.8(▲26.3)
建設	▲30.7	▲28.5	▲35.7	▲26.6	▲13.3	▲21.4	±0.0(▲13.3)
製造	▲7.1	△6.2	△7.1	△6.6	△6.2	±0.0	▲25.0(▲31.2)
卸・小売	▲31.0	▲33.3	▲34.4	▲40.0	▲30.0	▲31.0	▲24.1(▲26.6)
サービス	▲25.0	▲15.3	▲28.5	▲33.3	▲46.6	▲28.5	▲14.2(▲33.3)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 21.9	▲ 19.1	▲ 36.9	▲ 30.1	▲ 21.9	▲ 24.6	△ 1.3	▲ 1.3
建設	▲ 50.0	▲ 28.5	▲ 71.4	▲ 35.7	▲ 14.2	▲ 21.4	△ 7.1	△ 7.1
製造	△ 25.0	▲ 25.0	△ 25.0	▲ 31.2	▲ 31.2	▲ 37.5	▲ 6.2	▲ 18.7
卸・小売	▲ 34.4	▲ 13.7	▲ 55.1	▲ 31.0	▲ 20.6	▲ 24.1	▲ 17.2	▲ 10.3
サービス	▲ 21.4	▲ 14.2	▲ 35.7	▲ 21.4	▲ 21.4	▲ 14.2	△ 42.8	△ 28.5

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 32.8	▲ 31.5	▲ 21.9	▲ 17.8
建設	▲ 50.0	▲ 35.7	▲ 21.4	±0.0
製造	△ 12.5	▲ 37.5	±0.0	▲ 25.0
卸・小売	▲ 51.7	▲ 31.0	▲ 31.0	▲ 24.1
サービス	▲ 28.5	▲ 21.4	▲ 28.5	▲ 14.2

【平成22年11月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	業種
建設	業況は厳しいままだが、波を乗り越えるかじ取りをし改善に結び付けたい	厳しい業況 経営改善	板金・金物工事業
	仕入単価も上昇しているが、完成売上原価の上昇が高い。諸経費材料の使用量が多く、利益を圧迫している	仕入単価上昇 利益圧迫	電気工事業
製造	円高については販売価格(売上)に影響する 好転はしているが、ユーザーの在庫圧縮しすぎの反動がひとつの要因なので楽観視はできない	円高の影響 業況好転 在庫圧縮 先行き不透明	ガラス・同製品製造業 その他の鉄鋼業
	受注単価の減少が目立つようになってきた	受注単価減少	一般産業用機械設備製造業
卸小売	消費者の意識が目玉商品特売商品にしか向いていないように思われます。どこまで景気が低迷してゆくのか予想もつきません	消費者意識 景気低迷	食料・飲料卸売業
	天候の安定などにより冬物衣料品が好調に推移するなど堅調な動き。10月で4カ月連続して入店客数、売上高ともに年々越えとなるなど好調を維持している	冬物衣料品好調 入店客数好調 売上高好調	百貨店
	野菜の主要品目では入荷減単価高が続いています。果実でも入荷減単価高となつて、総体でも入荷減で売上高はわずかの増加で推移しています。しかし消費購買力は低迷状況にあるので、買出し人への情報を確認し、あわせて安全安心の取引を行っていきます。	青果入荷減単価高 購買力低迷	食料・飲料卸売業
	たばこ税の影響も対前年で85%以上に回復。売り上げは対前年で減少しているが客数は伸びている	たばこ税 売上減少 客数増加	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	中国からの輸入品が意外なところで影響 11月初旬に寒い日が続き衣料品が売り上げ増となったが、再度暖かさが戻り冬物の動き無し。コートなど売れ残り状態。全体的に来店客数減少傾向。新学期商品仕入れの為、資金繰りが厳しい	中国輸入製品 冬物衣料不振 入店客数減少 新学期商戦 資金繰り困難	菓子・パン小売業 その他の飲食料品小売業
	夏の猛暑による大赤字が繁忙期に向かい多少改善されるかと期待したが、仕入単価上昇となった。	繁忙期 仕入単価上昇	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)
	気温の低下とともに冬物衣料に動きが出たが、コートなどの高額商品は動きが鈍い。年末に向け販促イベントをうって売り上げ増を目指したい	冬物衣料品不振 高額商品不振 販促イベント	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	重衣料・ブーツ等のフェアを行い、気温の低下も重なったことから、高単価商材の購買につながったため、月初から好調な出足となった。また、入店客数も前年を上回る推移となったことから、先月まで苦戦していた大型雑貨店が前年並みまで回復し、先月も好調であった飲食業が客数を伸ばし、前年を上回っている。フェアが月末まで続くことから、後半にかけても鮮度ある商品展示を続けるとともに、積極的な接客アプローチを強化し、売上に繋げていく	冬物衣料好調 高額商品好調 大型雑貨好調 飲食店好調 入店客数上昇 イベント	各種商品小売業
	メディアの取材が3社あり、売上アップが期待できる		食肉小売業
	当社顧客に仕事が無く、したがって当社の売上減少も極めて深刻。売掛金の回収に四苦八苦している	売上減少 売掛金回収困難	塗料卸売業
サービス	11月は祝い月のため料理店は家庭内のお祝い事で一時的に不景気を忘れたかのような時期を迎えている。しかし、一般のお客様の出足は非常に鈍い様子。年内中に数件の個人店が閉店するとの話も聞いた	慶事の需要 入店客数不振 インターネット予約	食堂・レストラン
	宿泊はインターネットからの予約が拡大し、一室単価を下げる。今月はスポーツ団体等と、イベント団体の予約が多く単価は下がったが、稼働を上げることとなる。	宿泊単価減少 団体利用 稼働率上昇	ホテル
	年末年始を控えているためか、客単価が少しずつ下がっている	年末年始 客単価減少	公衆浴場業
	苦渋の決断だったが従業員の解雇を初めて実施した。11月は創業のイベント実施したため集客はできた。12月の宴席予約は昨年以上に盛り上がっているが平日苦戦	従業員解雇 イベント 集客成功 予約盛況 平日苦戦	酒場・ビヤホール

◎入店客数の減少

- ・ 全体的に来店客数減少傾向。新学期商品仕入れの為、資金繰りが厳しい  
その他の飲食料品小売業
- ・ 11月は祝い月のため料理店は家庭内のお祝い事で一時的に不景気を忘れたかのような時期を迎えている。しかし、一般のお客様の出足は非常に鈍い様子。年内中に数件の個人店が閉店するとの話も聞いた  
食堂・レストラン
- ・ 11月は創業のイベント実施したため集客はできた。12月の宴席予約は昨年以上に盛り上がっているが平日苦戦  
酒場・ビヤホール

◎冬物衣料商戦

- ・ 天候の安定などにより冬物衣料品が好調に推移するなど堅調な動き  
百貨店
- ・ 11月初旬に寒い日が続き衣料品が売り上げ増となったが、再度暖かさが戻り冬物の動き無し。コートなど売れ残り状態。  
その他の飲食料品小売業
- ・ 気温の低下とともに冬物衣料に動きが出たが、コートなどの高額商品は動きが鈍い。年末に向け販促イベントをうって売り上げ増を目指したい  
その他の各種商品小売業
- ・ 重衣料・ブーツ等のフェアを行い、気温の低下も重なったことから、高単価商品の購買につながったため、月初から好調な出足となった。  
各種商品小売業

◎売上高の減少

- ・ たばこ税の影響も対前年で85%以上に回復。売り上げは対前年で減少しているが客数は伸びている  
その他の各種商品小売業
- ・ 当社顧客に仕事が無く、したがって当社の売上減少も極めて深刻。売掛金の回収に四苦八苦している  
塗料卸売業

## 平成22年11月のCCI - LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲32.8に対し、「CCI-LOBO」が▲40.6で、柏の方がマイナス幅が7.8ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、製造業・サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲21.9に対し、「CCI-LOBO」が▲31.0で、柏の方がマイナス幅が9.1ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業でいずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲36.9に対し、「CCI-LOBO」が▲36.3で、柏のほうがマイナス幅が0.6ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業で製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業、卸小売業でいずれも10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲21.9に対し、「CCI-LOBO」が▲14.5で、柏の方がマイナス幅が7.4ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業、卸小売業、サービス業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△1.3に対し、「CCI-LOBO」が▲10.6で、柏の方が11.9ポイント良い。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業で、建設業、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業で、10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲21.9に対し、「CCI-LOBO」が▲25.5で、柏の方がマイナス幅が3.6ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業、サービス業。

# 平成22年11月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 32.8	 50.0	 12.5	 51.7	 28.5
CCI LOBO	 40.6	 51.5	 27.7	 41.8	 45.3

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 21.9	 50.0	 25.0	 34.4	 21.4
CCI LOBO	 31.0	 43.0	 16.3	 31.3	 38.1

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 36.9	 71.4	 25.0	 55.1	 35.7
CCI LOBO	 36.3	 55.1	 25.8	 33.8	 40.7

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 21.9	 14.2	 31.2	 20.6	 21.4
CCI LOBO	 14.5	 19.1	 21.4	 3.3	 16.9

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 1.3	 7.1	 6.2	 17.2	 42.8
CCI LOBO	 10.6	 23.8	 12.0	 5.3	 4.9

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 21.9	 21.4	 ±0.0	 31.0	 28.5
CCI LOBO	 25.5	 35.5	 20.6	 24.0	 27.5

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

# 柏の景気情報

## (11月の調査結果のポイント)

調査期間：平成22年11月16日～19日

調査対象：柏市内107事業所及び組合にヒアリング、回答数73

柏の景気情報・産業別業況DI

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
6月	▲42.6	▲46.1	0.0	▲65.5	▲33.3
7月	▲30.0	▲42.8	18.7	▲51.8	▲30.7
8月	▲38.0	▲50.0	21.4	▲58.6	▲42.8
9月	▲44.7	▲33.3	▲6.6	▲72.0	▲50.0
10月	▲40.7	▲40.0	0.0	▲56.6	▲53.3
11月	▲32.8	▲50.0	12.5	▲51.7	▲28.5
見通し	▲31.5	▲35.7	▲37.5	▲31.0	▲21.4

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

### 柏市の業況

業況DI3カ月ぶりに全国を上回る

11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース)以下同じは、32.8(前月水準40.0)となり、マイナス幅が7.9ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業12.5(同±0.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業28.5(同53.3)、卸小売業51.7(同5)

6.6)であり、特に、サービス業はマイナス幅が24.8ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、建設業50.0(同40.0)である。

【建設業】からは、「業況は厳しいままだが、波を乗り越えるかし取りをし、改善に結び付けたい」(板金・金物工業)、「仕入単価も上昇しているが、完成売上原価の上昇が高い。諸経費材料の使用量が多く、利益を圧迫している」(電気工事業)などの声が寄せられた。

【製造業】からは、「円高については販売価格(売上)に影響する」(ガラス・同製品製造業)、「好転はしているが、ユーザーの在庫圧縮しすぎの反動がひとつの要因なので楽観視はできない」(その他の鉄鋼業)、「受注単価の減少が目立つようになっている」(一般産業用機械設備製造業)という意見が寄せられた。

【卸小売業】からは、「消費者の意識が目玉商品特売商品にしか向いていないように思われます。どこまで景気が低迷してゆくのかわかりませんが、(食料・飲料卸売業)、「野菜の主要品目では入荷減単価

高が続いています。果実でも入荷減単価高となつて、総体でも入荷減で売上高はわずかの増加で推移しています。しかし消費購買力は低迷状況にあるので、買出し人への情報確認し、あわせて安全安心の取引を行っていきます」(食料・飲料卸売業)、「夏の猛暑による大赤字が繁忙期に向かい多少改善されるかと期待したが、仕入単価上昇となった」(燃料小売業)、「メテアの取材が3社あり、売上アップが期待できる」(食肉小売業)といった内容のコメントが上がってきた。

【サービス業】からは、「宿泊はインターネットからの予約が拡大し、一室単価を下げる。今月はスポーツ団体等と、イベント団体の予約が多く単価は下がったが、稼働を上げることとなる」(ホテル)、「年末年始を控えているため、客単価が少しずつ下がっている」(公衆浴場業)などのコメントが寄せられた。

### 11月の景気キーワード

#### 入店客数の減少

各業種から、「全体的に来店客数減少傾向。新学期商品仕入れの為、資金繰りが厳しい」(その他の飲食料品小売

業)、「11月は祝い月のため料理店は家庭内のお祝い事で一時的に不景気を忘れたいかのような時期を迎えている。しかし、一般のお客様の出足は非常に鈍い様子。年内中に数件の個人店が閉店するとの話も聞いた」(食堂・レストラン)、「11月は創業のイベント実施したため集客はできた。12月の宴席予約は昨年以上に盛り上がっているが平日苦戦」(酒場・ビヤホール)など、入店客数に関するコメントが寄せられた。減少傾向の企業が多い様子。

#### 冬物衣料商戦

各業種から、「天候の安定などにより冬物衣料品が好調に推移するなど堅調な動き」(百貨店)、「11月初旬に寒い日が続き衣料品が売り上げ増となったが、再度暖かさが戻り冬物の動き無し。コートなど売れ残り状態」(その他の飲食料品小売業)、「気温の低下とともに冬物衣料に動きが出たが、コートなどの高額商品は動きが鈍い。年末に向け販促イベントをうって売り上げ増を目指したい」(その他の各種商品小売業)、「重衣料・フリース等のフェアを行い、気温の低下も重なったことが

ら、高単価商材の購買につながったため、月初から好調な出足となった」(各種商品小売業)など、さまざまな声が上がってきた。

#### 売上高の減少

各業種から、「たばこ税の影響も対前年で85%以上に回復。売り上げは対前年で減少しているが客数は伸びている」(その他の各種商品小売業)、「当社顧客に仕事が無く、したがって当社の売上減少も極めて深刻。売掛金の回収に四苦八苦している」(塗料卸売業)などのコメントがあった。

### CCI LOBOOの比較

全産業合計では、「柏の景気」が32.8に対し、「CCI LOBOO」が40.6で、柏の方がマイナス幅が7.8ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、製造業・サービス業は1.0ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業。

# CC I - L O B O

## 商工会議所早期景気観測(11月速報)

調査期間：平成22年11月16日～22日

調査対象：全国の408商工会議所が2676業種  
組合等にヒアリング調査を実施

### 全国の業況

#### 業況DIは停滞 上向き気配はみられず

11月の全産業合計の業況DIは40.6(前月比0.1ポイント)と、前月からほぼ横ばい。業況は6月以来停滞しており、一向に上向き気配がみられない。特に、円高の長期化による輸出・生産の減少に加え、取引先からのコストダウン要請や海外移転の加速による受注の減少など、企業経営をとりまく環境はさらに悪化している。また、少ない受注をめぐる価格競争の激化や消費者の節約志向などにより、収益確保の難しさが一段と増している。

先行きについては、40.2(前月比+0.4ポイント)と前月からほぼ横ばいで推移した。しかし、エコポイントの半減により、12月以降、家電製品の売上が落ち込む見通しであることに加え、円高の長期化など景気の先行きが不透明な中、今後一段の企業収益悪化への懸念が強まっている。年末にかけて経営体力が限界に達し、倒産の増加を憂慮する声も多い。

【建設業】「受注競争が激し

く、収益確保は難しい状況のため、補正予算の前倒し執行により、早急に工事が発注されることを期待」(一般土木建築工事業)、「公共工事の約8割が前倒し執行されており、年度末に向けて受注の増加は望めない」(一般土木建築工事業)、「親会社の大手ハウスメーカーから再三コストダウン要請があるなど、経営状況は厳しい」(建築工事業)

【製造業】「円高の影響で海外での価格競争力が低下し、受注獲得が厳しい」(その他の輸送用機械器具製造業)、「年度末に向けて鋼材の仕入価格が上昇する見通しであり、採算の悪化を懸念」(その他の金属製品製造業)、「業況回復の兆しが見えず、年末の運転資金をどのようにつまめるかが課題」(自動車・同附属品製造業)

【卸売業】「取引先からの値下げ要求が強いため、仕入価格の上昇を販売価格に転嫁できず、採算が悪化」(農畜産・水産物卸売業)、「売上は前年より増加しているものの、天候不順により仕入価格が上昇しており、収益確保は難しい」(農畜産・水産物卸売業)、「消費者の購買意欲が特売商品にしか向いてお

らず、売上が低迷」(各種商品卸売業)

【小売業】「海外からの仕入を半年から1年前に行つたため、円高メリットを享受できていない」(百貨店)、「円高により、ワイン等の仕入価格が低下しているが、販売促進のため円高還元セールを実施せざるを得ず、収益の向上にはつながらない」(その他の小売業)、「12月からエコポイントの付与が半減されることから、駆け込み需要によりテレビや冷蔵庫などの売上が増加」(商店街)

【サービス業】「エコポイント制度の変更により、12月以降、機械関連の輸送需要が低下する見通し」(運送業)、「夏以降、厳しい状況が続き、11月から12月にかけて、廃業を考えている店が非常に多い」(食堂、レストラン)、「野菜の仕入価格が高止まりしており、採算を圧迫」(その他の一般飲食店)

11月のキーワード

#### 円高の影響

製造業を中心に、円高の長期化によって輸出や受注が減少するなど、企業経営に悪影響が及んでいるとの声が多い。

#### 厳しい雇用情勢

景気の先行き不透明感が強い。そのため、従業員の賃金を削減せざるを得ないなど、厳しい雇用情勢を訴える声が多い。従業員への給与と賞与を削減して、どこにか厳しい状況を乗り切っている(福岡・ソフトウェア業)、経営状況が厳しく冬のボーナスを支給するかどうかが苦慮している(西条・自動車整備業)、従業員を正社員からパートに切り替えて、コストを削減している(唐津・その他の一般飲食店)

#### 売上減少の懸念

エコポイントの半減による家電製品の売上の落ち込みや、消費者の節約志向による忘年会の予約の減少など、

年末に向けて、売上の悪化を懸念する声が多い。

エコカー補助金終了の影響で受注が減少する中、エコポイント制度の変更によるさらなる受注の減少を懸念(佐野・金属加工機械製造業)、エコポイント制度変更前の駆け込み需要により売上は好調だが、12月以降の反動減を懸念(京都・機械器具小売業)、宿泊や宴会の客単価が低下しており、忘年会や新年会プラン、おせち料理等の売上の減少を懸念(札幌・旅館)

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
6月	▲40.5	▲58.1	▲25.1	▲37.0	▲41.8	▲45.1
7月	▲39.7	▲58.0	▲20.6	▲33.3	▲46.9	▲41.6
8月	▲37.7	▲56.1	▲20.0	▲35.4	▲43.9	▲38.8
9月	▲36.4	▲48.9	▲24.7	▲30.1	▲37.4	▲41.5
10月	▲40.5	▲54.4	▲23.3	▲34.6	▲45.6	▲46.7
11月	▲40.6	▲51.5	▲27.7	▲41.3	▲41.8	▲45.3
見通し	▲40.2	▲46.0	▲40.7	▲35.9	▲38.1	▲39.9

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI